

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター
宮崎県健康増進課
宮崎県衛生環境研究所

■ 宮崎県第 35 週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は 693 人（定点あたり 26.5）で、前週比 109%と増加した。

先週に比べ多かった主な疾患は流行性角結膜炎で、減少した主な疾患は流行性耳下腺炎であった。

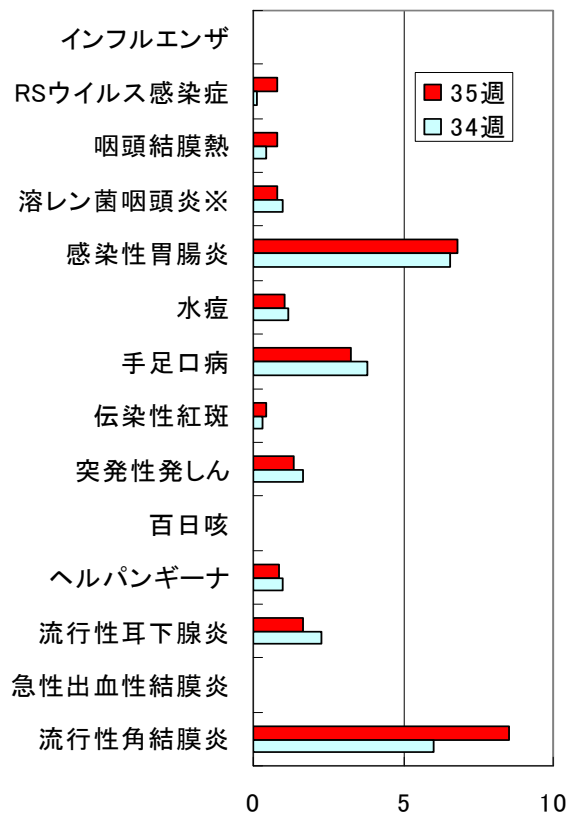
流行性角結膜炎の報告数は 51 人（8.5）で前週比 142%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値

（2.3）の約 3.6 倍と多い。宮崎市（10.7）、都城（9.0）保健所からの報告が多く、年齢別では 10 歳未満で全体の約 3 割、20 歳代から 50 歳代で全体の約半数を占めた。

手足口病の報告数は 116 人（3.2）で前週比 84%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値（1.3）の約 2.5 倍と多い。中央（9.0）、高鍋（8.5）、延岡（7.0）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 7 割を占めた。

クラミジア肺炎 1 人が高鍋保健所から報告された。患者は 60 歳代の男性で、原因菌は *Chlamydomphila pneumoniae*。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
咽頭結膜熱	3	0.81	日南(3.7)	1歳～3歳で全体の約6割を占めた。
手足口病	5	3.2	中央(9.0)、高鍋(8.5)、 延岡(7.0)	1歳～3歳で全体の約7割を占めた。
伝染性紅斑	2	0.44	都城(2.2)	4歳～7歳で全体の約7割を占めた。
流行性角結膜炎	8	8.5		10歳未満で全体の約3割、20歳代～50歳代 で全体の約半数を占めた。

■ 全数把握対象疾患

1 類感染症 : 報告なし。

2 類感染症 : 結核 10 例が宮崎市 (6 例)、都城 (2 例)、延岡・中央 (各 1 例) 保健所から報告された。

《宮崎市保健所》・40 歳代の女性で肺結核。咳がみられた。

・50 歳代の女性で無症状病原体保有者。

・40 歳代の女性で無症状病原体保有者。

・60 歳代の女性で無症状病原体保有者。

・40 歳代の女性で無症状病原体保有者。

・10 歳代の女性で無症状病原体保有者。

《都城保健所》・60 歳代の男性で疑似症患者。腰痛がみられた。

・80 歳代の男性で肺結核。咳、痰、呼吸困難がみられた。

《延岡保健所》・70 歳代の男性で肺結核。咳、痰がみられた。

《中央保健所》・60 歳代の女性で疑似症患者。発熱がみられた。

3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 3 例が都城・延岡・日向 (各 1 例) 保健所から報告された。

《都城保健所》・2 歳の女児で水様性下痢がみられた。原因菌の血清型は 0157 (VT 産生)。

《延岡保健所》・7 歳の女児で腹痛、溶血性尿毒症症候群がみられた。原因菌の O 血清型は不明 (VT 産生)。

《日向保健所》・40 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は 0157 (VT1、VT2 産生)。

4 類感染症 : 報告なし。

5 類感染症 : 報告なし。

■ 全国第 34 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 10.3 で、前週比 99%であった。今週増加した主な疾患は感染性胃腸炎と A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと流行性耳下腺炎であった。

感染性胃腸炎の報告数は 9,013 人 (3.0) で、前週比 110%と増加した。例年同時期の約 1.2 倍である。大分県 (7.7)、宮崎県 (6.6)、鹿児島県 (5.2) からの報告が多く、年齢別では 6 ヶ月から 3 歳で全体の約半数を占めた。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 1,574 人 (0.52) で、前週比 106%と増加した。例年同時期の約 9 割である。福井県 (1.3)、富山県 (1.1) からの報告が多く、年齢別では 3 歳から 6 歳で全体の約半数を占めた。

□全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 317 例
- 3 類感染症 : コレラ 1 例、細菌性赤痢 7 例、腸管出血性大腸菌感染症 232 例
- 4 類感染症 : A型肝炎 4 例、オウム病 2 例、デング熱 12 例、日本紅斑熱 4 例、マラリア 2 例、レジオネラ症 17 例、レプトスピラ症 1 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 9 例、ウイルス性肝炎 1 例、急性脳炎 2 例、後天性免疫不全症候群 16 例、ジアルジア症 1 例、髄膜炎菌性髄膜炎 1 例、梅毒 8 例、破傷風 1 例、麻しん 6 例

■ ウイルス情報

日本脳炎は、蚊(コガタアカイエカ)が媒介する日本脳炎ウイルスによっておこる感染症で、夏から秋にかけて患者が発生します。

感染しても多くは不顕性感染ですが、過去には、100 人から 1,000 人の感染者の中で 1 人が発病すると報告されています。発病する場合には、約 5~15 日の潜伏期間の後、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、引き続き急激に光への過敏症、意識障害、けいれん等の中樞神経系障害(脳の障害)を生じます。脳炎を発症した場合 20~40%が死亡に至るといわれています。

日本脳炎はヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖した後、そのブタを刺した蚊がヒトを刺すことによって感染します。

日本脳炎の流行予測のために、毎年7月から9月にかけて、ブタの血清中の抗体検査を行い、ブタの感染状況を調査しています。

8月30日採血分の検査結果で、11頭のうち3頭に新鮮感染が認められました。ワクチンの接種など感染を防ぐための注意が必要です。

<予防対策>

- ①蚊の多い場所や、蚊の活動が活発になる日没後に戸外に出かけるときには、長袖、長ズボンをつける、虫除け剤を使用するなど、蚊に刺されないよう十分に注意する。
- ②家庭周りの小さな水たまり(植木鉢の皿、古タイヤ、竹の切り株など)をなくし、蚊の発生源を減らす。
- ③休養、栄養、睡眠を十分にとり過労を避け、体力の保持に努める。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第35週(08月30日～09月05日)

疾病名		第34週	第35週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	4	29	1	4	7					17	
	定点あたり	0.11	0.81	0.10	0.67	1.75	0.00	0.00	0.00	0.00	4.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	16	29	7	7	2	11				1	1
	定点あたり	0.44	0.81	0.70	1.17	0.50	3.67	0.00	0.00	0.00	0.25	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	35	28	5		5	3	6	5		4	
	定点あたり	0.97	0.78	0.50	0.00	1.25	1.00	2.00	1.25	0.00	1.00	0.00
感染性胃腸炎	報告数	237	246	37	66	15	19	50	15	2	26	16
	定点あたり	6.58	6.83	3.70	11.00	3.75	6.33	16.67	3.75	2.00	6.50	16.00
水痘	報告数	41	38	22	6	3	1		1		5	
	定点あたり	1.14	1.06	2.20	1.00	0.75	0.33	0.00	0.25	0.00	1.25	0.00
手足口病	報告数	138	116	11	15	28		3	34		16	9
	定点あたり	3.83	3.22	1.10	2.50	7.00	0.00	1.00	8.50	0.00	4.00	9.00
伝染性紅斑	報告数	12	16		13	1		2				
	定点あたり	0.33	0.44	0.00	2.17	0.25	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	60	48	19	5	7	2	3	8		3	1
	定点あたり	1.67	1.33	1.90	0.83	1.75	0.67	1.00	2.00	0.00	0.75	1.00
百日咳	報告数	1	1			1						
	定点あたり	0.03	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	35	31	4	3	2	12		1		9	
	定点あたり	0.97	0.86	0.40	0.50	0.50	4.00	0.00	0.25	0.00	2.25	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	82	59	11	7	14		1	2	1	23	
	定点あたり	2.28	1.64	1.10	1.17	3.50	0.00	0.33	0.50	1.00	5.75	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	36	51	32	18	1						
	定点あたり	6.00	8.50	10.67	9.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数		1						1			
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第35週)

2類感染症	結核	143例(10)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	44例(3)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
	デング熱	1例	日本紅斑熱	3例	マラリア	2例
	レジオネラ症	1例				
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎	7例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒	5例
	破傷風	3例	麻しん	1例		

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

はやり目（流行性角結膜炎）が増えています。（8 月 30 日～9 月 5 日）

はやり目の報告が増えています。この病気は、アデノウイルス 8 型や 19 型というウイルスが結膜に感染したもので、夏に多く、成人を中心に幅広い年齢層で感染します。

急に充血し、まぶたの裏側にブツブツができ大量の目やにが出て、涙が増え、かゆみや眼がゴロゴロしたり、まぶしく感じることもあります。ひどくなると、耳の前のリンパ腺やまぶたが腫れ、熱が出ることもあります。片方の目の充血から 2～3 日でもう片方の目にも症状がでて、2～4 週間程で治ります。

感染力が非常に強いので、はやり目にかかった人の目を触った手で他の人の目を触ると感染します（接触感染）。タオルからの感染もあるので家族内に患者さんがいる場合にはタオルは別にしましょう。患者さんは他の人にうつさないために目に触らないようにし、目やにはティッシュで拭いて捨て、お風呂には最後に入るようにしましょう。周囲の人は石けんと流水での手洗いを徹底しましょう。

このウイルスは熱や消毒薬に弱いので、タオルや枕カバーなどは熱湯で煮沸消毒できます。熱に弱いものに対する消毒は塩素系漂白剤、アルコールが有効です。